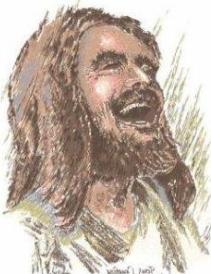


「『終わり』の時にむかって」

ペテロの手紙第一 4章7～11節



この世を賑わす終末論はこの世界の破滅論ですが、聖書の教える終末論は完成論です。聖書はこの世界には初めがあり、そして終りがあることを教えています。聖書のメッセージは、この世界を創造されたのは神であり、そして最終的に完成に至らせられるのは神であることを教えています。そして、それは私たちの人生も同じです。

イエスキリストの公生涯の最初のメッセージは、「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1:15)でした。ペテロは私たちにそれを思い出させるかのように「万物の終わりが近づきました」と語ります。

① 祈りのために心と身を整える

“万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。” 7

“そこで、彼らに言われた。「どうして眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい。」” ルカ22:46

② 互いに愛し合いつつ、

“何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。” 8

“憎しみは争いを引き起こし、愛はすべての背きをおおう。” 箴言10:12

③ 互いにもてなし合いつつ、

“不平を言わないで、互いにもてなし合いなさい。” 9

“ですから監督は、非難されるところがなく、一人の妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、礼儀正しく、よくもてなし、教える能力があり…” 1テモ3:2

④ 互いに仕え合いつつ、

“それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。” 10

“兄弟たち。あなたがたは自由を与えるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。” 加拉太5:13

○考えてみましょう

- 私たちの生き方は、その時その時に自分なりの良い生き方をしていくという、「終わり」を考えない生き方になっていないでしょうか。神さまが備えてくださっている私たちの完成の姿をビジョンとしてかけげて繰り返し告白する意味を考えてみましょう。